

令和3年度第一学期終業式式辞

皆さん、おはようございます。校長の川崎芳徳です。この度も、放送での式典になりましたこと、大変残念に思っています。

1学期の最終日にあたり、一言あいさつを述べさせていただきます。

皆さんどんな1学期だったでしょうか？

始業式でお話しさせていただきました…いいクラスをつくることができましたか。「旅人の話」も以前させていただきましたね。「ものの見方・考え方」はとても大切でしたね…物事を、まずは肯定的に捉え、有るもの、そろっているものを数えることができる人、一方、物事を、常に否定的に捉え、無いもの、不足しているものを数え、不満を並べ前進しようとしめない人…この違いを、皆さんの年齢から何十年も続けてしまうと、歩む人生に大きな違いが生じてきます。ペップトークで「できる！できる！」と考え行動する人、「あれが無い、これが無い、無理無理」と行動を起こさない人。友が丘の皆さんは、必ず、前者となっていくことを信じています。

さて、今学期も、コロナ禍の中での生活を強いられました。そんな中、3年生は石垣島へ修学旅行、2年生は京都へ学年企画行事、1年生は神鍋へオリエンテーション合宿、そして、全校生参加の須磨東高等学校との第一回交流戦と、大きな行事を意義深く開催することができました。他の学校から、「修学旅行の中止」や、長年続いている学校同士の「定期戦の中止」といった情報が飛び込んでくるたびに、皆さんの日頃の行いの良いことが、「幸運」を引き寄せているんだなと感じさせられていました。

また、昨日の全校集会で披露がありましたが、部活動をはじめ、看護とケアの授業でのナース川柳ひょうごなど、色々な分野で、実に素晴らしい活躍がありました。ホームページにも、そのときどき、掲載していますので、見てください。文化祭、市の大会、県大会、近畿大会、全国大会と、それぞれステージは異なりますが、勝敗を決するものに関しましては、日本一になる1チーム、日本一になる1人以外は、必ず「負け」を経験します。「勝つ」ことを信じ、求め、努力し続け、「勝つ」喜び、充実感、仲間との結束から多くを学ぶ…そして最後は、「負け」を通して何を学び獲得するか…「いかに負けるか」…言い換えれば、「いかに引退するか」…これこそが、高等学校の部活動の意義、価値を左右する重要なポイントなのではないでしょうか。私は、文化祭で引退を迎えた部や、先日の野球部や

近畿大会での男子バレー部など、強豪を相手に見事に渡り合った負けをはじめ、色々な部活動の引退、負け方を見させていただきました。最後の最後まで、声をかけあい、またセルフペップトークで自らを奮い立たせ、失敗など恐れな、たとえ、物理的に逆転は不可能と思われる残り時間・得点差であっても、「やるべきこと」、「これまで練習で取り組んできたことをやり通すんだ」という姿勢で臨んでいる姿に、強く心を動かされました。“鍛錬千日之行 勝負一瞬之行”・・・確かな千日の鍛錬あつての、見事な勝負、演技、作品を見せていただき、皆さんのことを、実に誇らしく思いました。多くの素晴らしいエネルギーに触れさせていただいたこと、本当にありがとうございました。そして、とりわけ、引退を迎えた3年生、本当にお疲れさまでした。これまでの活動で獲得した力は、紛れもなく自身でつかんだ大きな財産であり、生涯、皆さん自身を、様々な場面で励ますことになることだと確信しています。

まだまだ勝ち続けておられる人もおられます。水泳部の四ツ谷さんは、インターハイ予選を兼ねた近畿大会出場のため、あさって京都へ入ります。ウエイトリフティング部の中尾さん、小嶋さん、後藤さん、坂本さん、西尾さんの5名は、福井県でのインターハイに出場されます。皆が応援しています。頑張ってください！

話は変わりますが、先日、1年生が「職場訪問」に行かれました。どうだったでしょうか。いくらホームページを見ても、資料を読み込んでも、現場に行かなければわからないことがたくさんあったことだと思います。是非、そこで感じたこと、考えたことを忘れることなく、これからの学びに生かしてください。3年生では、課題研究の全体発表会が行われました。さすがに、兵庫県の総合学科高校をリードする本校の心臓部・・・実に興味深い内容が多くありました。課題を設定し、問いを深め、問題解決に向け情報を収集・整理・分析、また周囲の人と意見交換・協働したり、時には外部の人の力を借りながら進めていかれた課題研究・・・まさに「知・考・行」、校訓の実践そのものであり、これからの長い人生において、大きな意味を持つ取組でした。この学びで獲得したことを軸に、これからの心豊かな人生をデザインして行ってほしいと、心から願っています。

皆さんにお伝えしたいことがもう一点・・・今から3か月前、4月16日金曜日のお昼に、ある男性から一本の電話が学校に入りました。その内容は、「4月13日火曜日の夕方、私が道で倒れていたところを、須磨友が丘高校の男子生徒が、そこに居合わせた人と一緒に、救急車を呼ぶなどして助けてくれた。お礼の言葉とともに、何かお礼がしたい。生徒の自宅住所を教えてください」とのことでした。

た。助けたのは、本校2年生6組の坂本明翔さんでした。結局、坂本さんは、「お電話だけで十分です」と、お礼をいただくことは断っておられます。

皆さん、この突然の人助け、これはなかなかできそうで、できないことなんです。一步が出ないんです。「他の人に任せておこう。見えていなかったことで、自分を納得させよう」って考えてしまうケースが多いのです。本当に素晴らしい勇気ある行動をとられました。助けられた方のみならず、その方のご家族も、生涯、坂本さんのことを忘れることはないでしょう。

皆さんに、時々、「生きる目的」、「私たちは何のために生きているのか」というお話をさせていただいています。私は、「幸いにも、両親から、『人』としていただけた『命』に深く感謝し、可能な限り『魂』を磨き自らを高め、獲得した力で、少しでも世のため人のために貢献できるよう努めること」だと考えています。…このたびの、他人の命に関わることに勇気ある行動をとられた坂本さんに、心から敬意を表するとともに、私自身もお手本にさせていただきたいと思いました。

最後になりましたが、いよいよ3日後に東京オリンピックが開幕します。今月26日の午後に、本校26回生、八木かなえさんが、ウエイトリフティング競技、女子55kg級に出場します。前回のリオデジャネイロオリンピック、前々回のロンドンオリンピックでは、本校体育館で壮行会を開催するなど、皆で激励できたのですが、この度は残念ながらコロナ禍ということで、それも叶いませんでした。是非、テレビで応援してください。

それでは、9月1日水曜日、2学期始業式で、元気な皆さんとの再会を楽しみにしています。忘れないでください。一番大切なものは「命」です…もし、何か悩ましいことがあれば、無理に一人で抱え込まず、家族、友人、先生に相談、また場合によっては、公的機関はじめ、色々と設けられている相談窓口で電話やメールをするなどして、ストレスを減らしながら解決に近づける手を打ってください。皆さんは、決して独りではありません。

明日からの42日間、どうぞ、それぞれに充実した時間を過ごしてください。私も、日頃できないことにチャレンジします。

以上、令和3年度第一学期終業式の「式辞」とします。

令和3年7月20日

兵庫県立須磨友が丘高等学校校長 川崎 芳徳